

信仰と行い

2020年5月3日

序：ぶどう園の労務者を雇った主人……神の恵みによる救い（みな平等）
タラントのたとえ……主人から預かったものを用いて報酬受ける（それぞれ異なる）

信仰さえも神からの賜物 エペソ 2・8

信仰によって生きる、信仰を堅く保つ、信仰に踏み留まる・立つ、信仰を守り通す
信仰から離れる、信仰を捨てる、信仰からはずれる・迷い出る、信仰から出ていない

信仰者の責任

信仰を働かせる ⇒ 信仰は強くなる ⇒ 実を結ぶ = 善い行い
筋肉と同じ 成長する 実によって木を知る

I. よい行いによっては義とされない

∵人はだれも、律法を行うことによって神の前に義と認められない ロマ 3・20
イエス・キリストを信じるすべての人に与えられる神の義、差別なし 3・23
（あなたがたが救われたのは）行いによるのではない、誰も誇らないため
エペソ 2・9

主イエスを信じなければ、私たちは神の認める善い業などできない
信じれば、律法の要求をことごとく完うしたイエス・キリストの義を転嫁される

II. 人は行いによって義と認められる ヤコブ 2・24

III. 行いの伴わない信仰＝むなしい、死んでいる、無益、その人を救うことはできない 現実から目をそむけて、必要を満たすために具体的に行動しない（口先だけ） ヤコブ 2・15～16

行いとともに働く信仰＝行いが信仰を完成、有益、行いが信仰の証明（一致）

例：アブラハム

ヤコブ 2・23 アブラハムは神を信じた。それが彼の義と認められた

2・21 アブラハムがイサクをささげた 創 22章

神：愛するひとり子イサクを全焼のいけにえとしてささげよ

ア：①私と息子はあそこに行き、礼拝をしてまた戻ってくる
ふたりで

②神ご自身が、全焼のささげ物の羊を備えてくださる

アブラハムの神に対する信仰は従順な行動で証明された

例：ラハブ

ヤコブ 2・25 ヨシュア 2・1～22、ヘブル 11・31

異邦人の遊女、イスラエルの神を信じた

エリコ偵察の使者達をかくまい、自国の王に引き渡さず逃がした
イスラエルの民の中に入った

ルツの夫ボアズの母となり、イエス・キリストの系図に

IV. 善きサマリヤ人の例え

ルカ 10・25～37

律法学者 VS イエス・キリスト

イエスを試みる目的

「何をしたら」？

隣人とはだれか？

口実をもうけて、回避しようとした

- ①ある人（ユダヤ人） 強盗に襲われて半死半生
- ②祭司（ユダヤ人） エルサレムの神殿で仕えていた（エリコに居住？）
レビ人（ユダヤ人） //
- 見て見ぬふりをして道の反対側を通過
自分の時間や労を惜しんだ、巻き添えを恐れた
自分の職務に忙しいと理由づけ

ユダヤ教の代表者たちは律法を実行するはずだが、しなかった

- ③サマリア人
北王国滅亡（首都はサマリア）
征服者アッシリアの王の政策
イスラエル人の指導者たちを捕囚、アッシリアに連行
アッシリアの民をイスラエルに移住させる
↓
イスラエル人は真の神と偶像の両方を礼拝
雑婚（子孫は混血）
南王国滅亡（首都はエルサレム）
70年のバビロン捕囚
帰還後、神殿再建時、サマリア人の協力の申し出を跳ねつけた

サマリア人は、ゲリジム山に礼拝所
ハスモン王朝のヒルカノスがこれを破壊
以後、イスラエル人とサマリア人は交流が途絶えた（外国人とみなす）

本来敵対関係にあるサマリア人が、同胞に見捨てられたユダヤ人を救う
旅の途中（商用） 忙しい、予定もあった？
半死半生の人を見て、立ち止まり、近づいて来た
かわいそうに思った
具体的な介抱（消毒、痛み止め、包帯）
自分の家畜に乗せて運搬、宿屋に連れて行く（休む、身の安全）
留守中の世話を宿屋の主人に依頼
費用を自分が払う

隣人ではなかったが、隣人になった

- ☆血統上はユダヤ人ではなかったこのサマリア人が、その行いによって
信仰を証明
☆祭司もレビ人も神に仕えていると自己義認、自分は信仰があると自負
しかし、行いが無い死んだ信仰

V. 信仰と行い

行いは信仰の現れ（見えない部分が見える部分によって明らかになる）
行いによって救われるのではないが、救われた者は善い行いをしようとする
義とされる

信仰が生きているか、死んでいるかは行いによって知られる
どのような信仰者であるかは、その行為・生活で判断される
何を考え、何を重要としているかは、行動に現れる
どういう人物かは、言葉以上に行いによってわかる

新型コロナウイルスの感染拡大の中で、自分自身も教会も国家も様々の組織・機関
も、真偽が問われている、ふるいにかけている

神の友？あるいは神の敵？ 生きた信仰か？死んだ信仰か？

さばきが神の家から始まる時が来ている ペテロ I 4・17
教師は、格別きびしいさばきを受ける ヤコブ 3・1
その日が近づく中、正しい畏れと希望をもって、信仰の走路を完走しよう